令和８年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策　　【松江市立 湖南中学校 】

(1)学力調査結果から見られた傾向

教科		分析(成果○，課題●)	改善策(・)
国語	成果	○「話す・聞く」分野の正答率が、全国平均・県水準を大きく上回っている。 ○「読むこと」分野の正答率、および選択式問題の正答率が、全国・県水準と同水準である。	・文法知識について、基礎から学び直しをする。
	課題	●大問1の文法事項に関する問いにおける正答率が、すべて全国・県水準を下回っている。 ●国語に関する意識の割合が低い。	
数学	成果	○B「図形」、C「関数」の領域、「短答式」の問題形式、「知識・技能」の観点に関して、平均正答率が島根県と同水準である。 ○数学に関する意識が高い。	・数学的な思考を高める問題に多く触れさせることにより、問題解決の方法を考える機会を増やす。 ・グループ活動の中で、互いに問題の説明を行う場面を設定する。
	課題	●A「数と式」、D「データの活用」の領域、「記述式」の問題形式、「思考・判断・表現」の観点に関して、平均正答率が全国水準を下回っている。	
英語(成果または課題で話すことについて触れること)	成果	○「聞くこと」の平均正答数は島根県(公立)を上回り、全国と同水準である。 ○「話すこと」について、「明日しようと思っていることを伝える」問題や、「したいこととその理由を話す」問題は正答率が全国を上回っている。	・読んだことについて自分の考えや理由を書く練習する機会を定期的に設ける。読んだ英文を参考にして英文を書くためのポイントを指導する。 ・話すことについて、自分の考えや意志を伝える活動を継続する。事実を伝えたり、相手の行動を促したりする表現を定着するための活動を取り入れる。
	課題	●「書くこと」の無回答率が、島根県(公立)・全国(公立)と比べて高い。特に、読んだことについて自分の考えや理由を書く問題についてその傾向が顕著である。 ●「話すこと」について、「明日の天気を伝える」問題や、「家に来てもらうように依頼する」問題は正答率が島根県・全国と比べて低い。	

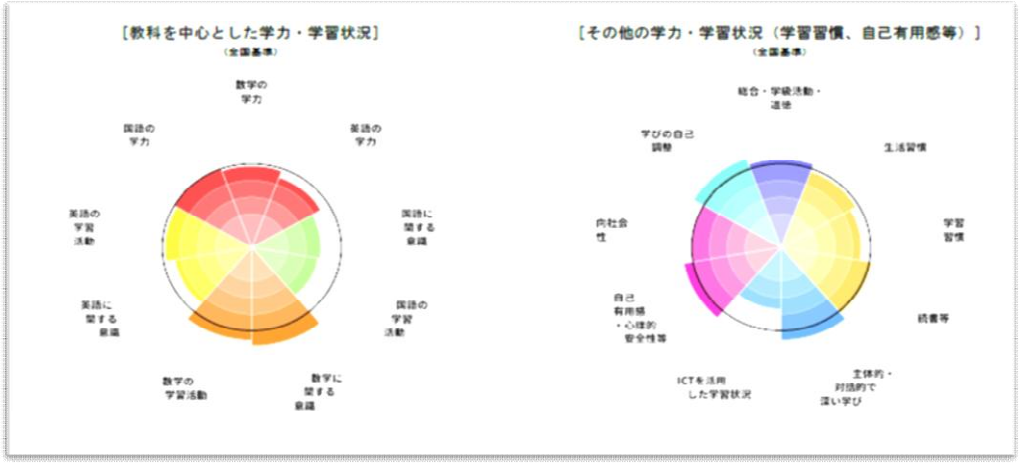
(2)質問紙調査から見られた傾向

		分析(成果○:強み/伸ばしたい点，課題●:弱み)	改善策(・)
質問紙	成果	○自分にはよいところがあると思う割合と、自分と違う意見について考えるのは楽しいと答える割合が多く、自己有用感を持っている生徒の割合が高い。 ○授業では課題の解決に向けて、自分で考え自分から取り組む割合が高い。	・各教科での積極的なICTの活用 ・ICTを使った個別学習の機会の提供 ・共同編集による協働学習を行い、データや意見を集約・共有する機会を増やしていく。
	課題	●授業におけるICTの活用のした学習状況が割合が県や全国よりもかなり低い。	

(3)その他、今後校内研究等学校全体で特に力を入れて取り組むこと

学校全体	総合的な学習の時間では、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表したり、自分の考えを深め、新たな考え方に気付いたりすることが比較的できているが、普段の授業でのICTを利用した学習があまりできていない。 各教科では、国語で要約・意見記述の充実、数学で図形・データ領域の思考力を高める取組、英語で自分の考えや意志を伝える活動を継続し、主体的に考え表現できる生徒の育成を図る。

(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



【受検者数】

140 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。

(5)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)

